

# 上空で見つけよう



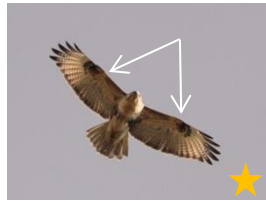
## □オオタカ【タカ科】

カラス大の猛禽類。キジバトなどの中型の鳥やネズミ類などを襲って食べる。飛んでいるときは大きさ以外でハイタカと見分けるのは難しい。



## □ハイタカ【タカ科】

雄はハト大の小形の猛禽類。シジュウカラなどの小鳥やネズミ類を襲う。葛葉緑地ではオオタカよりハイタカの方が記録が多い。



## □ノスリ【タカ科】

カラスよりも大きい猛禽類。腹側に褐色の帯があることと、翼の矢印部分が黒いのが特徴。

# くずはの広場 野鳥観察マップ

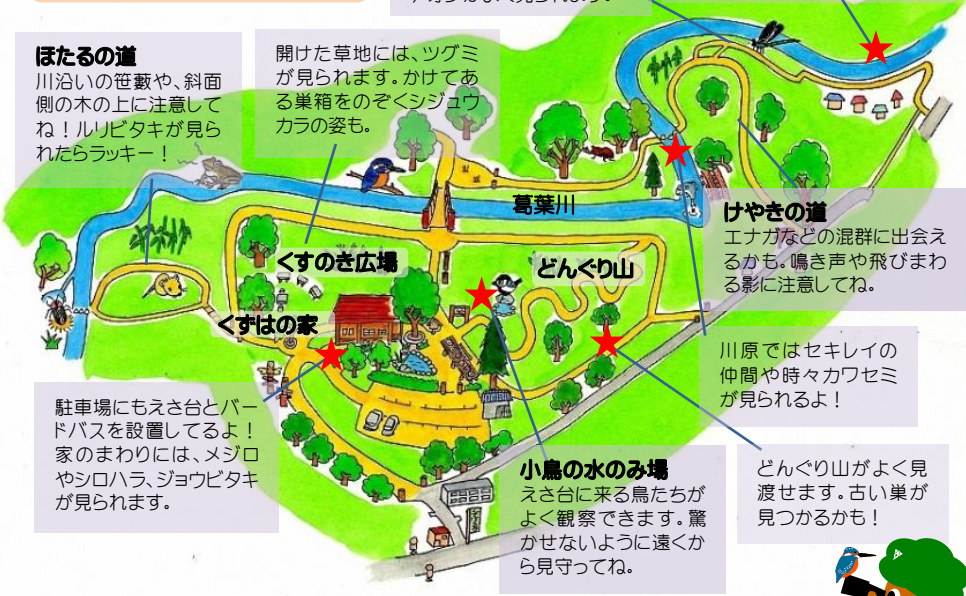
マナーを守って  
楽しく観察しましょう！

うぐいすの道  
笹藪が続く道。ウグイスやアオジがよく見られます。

野鳥の土手  
川原やスキ原など野鳥がたくさん見られる鳥ポイント。上空には猛禽類が飛んでくるかも！

ほたるの道  
川沿いの笹藪や、斜面側の木の上に注意してね！ルリビタキが見られたらラッキー！

開けた草地には、ツグミが見られます。かけてある巣箱をのぞくシジュウカラの姿も。



けやきの道  
エナガなどの混群に出会えるかも。鳴き声や飛びまわる影に注意してね。

川原ではセキレイの仲間や時々カワセミが見られるよ！

駐車場にもえさ台とバードバスを設置してるよ！家のまわりには、メジロやシロハラ、ジョウビタキが見られます。

小鳥の水のみ場  
えさ台に来る鳥たちがよく観察できます。驚かせないように遠くから見守ってね。

どんぐり山がよく見渡せます。古い巣が見つかるかも！

## かんさつガイドの見方

★：葛葉緑地で主に秋冬によく見られる鳥 ★：葛葉緑地で一年中見られる鳥

!：葛葉緑地でまれに見られる鳥 ☑：観察できた鳥は、口にチェックをいれましょう

編集・発行：秦野市くずはの家 〒257-0031 秦野市曾屋 1137 TEL:0463-84-7874

発行日：2022年1月15日 写真協力：小泉俊江氏

\*このリーフレットは公益財団法人 かながわトラストみどり財団の助成金を活用して作成されました。

# くずはの広場・かんさつガイド⑤

# 秋冬の野鳥



葛葉緑地では、川原や雑木林、草地や笹藪などそれぞれの環境を好む鳥が集まり、秋冬は特に多くの種類を観察できます。姿だけでなく、鳴き声や鳥たちの暮らしぶりを観察しながら、バードウォッチングをお楽しみください。



メス



□ジョウビタキ【ヒタキ科】

10月頃に渡来する冬鳥。ヒツヒツとよく響く声で鳴く。オレンジ色のお腹と、翼に白い斑紋があるのが特徴。



□ルリビタキ【ヒタキ科】

12月頃に訪れる冬鳥。雄の青い羽根が美しい。葛葉川沿いの藪周辺の低い所で時々見られる。



メス

## えさ台にあつまる鳥たち

くずはの広場では、野鳥のえさが少なくなる冬の間だけ、「小鳥の水のみ場」にえさ台を設置し、ヒマワリのたねを置いています。器用に足を使うカラ類や、太い嘴(くちばし)で堅いたねを食べるアトリの仲間が集まってきます。鳥たちがヒマワリのたねを食べる様子をよく観察してみましょう。



□シジュウカラ【シジュウカラ科】

最も良く見られる鳥。1月頃からさえずり始め、ペアを作る。



□ヤマガラ【シジュウカラ科】

シジュウカラに似るが、お腹が赤茶色で、さえずりもゆっくり。



□カワラビト【アトリ科】

ヒマワリのたねが大好物。数羽の群れで行動する。ピンク色の太い嘴が特徴。



□シメ

【アトリ科】

11月頃に訪れる冬鳥。太い嘴と小太りな体の特徴。春頃になると、嘴の色が鉛色に変化する。



★ □マヒワ【アトリ科】



★ □アトリ【アトリ科】

## 混群をつくる小鳥たち

秋になると、小鳥たちが他の種類の鳥と混群を作って一緒に行動している様子が見られます。単独にいるよりえさを見つけやすい、敵にいち早く気づける、襲われにくいなどの利点があります。下の3種の他に、シジュウカラやヤマガラがよく一緒に行動しています。



□エナガ【エナガ科】

繁殖期以外は群れで行動している。尾が長く、下腹と肩がピンク色の小さな鳥。



□メジロ【メジロ科】

サザンカやヤブツバキなどの花の蜜を好む。花粉を運ぶ働きをする。



□コゲラ【キツツキ科】

キツツキの仲間ではいちばん小さい。枝や幹をつつきながら、虫を探し食べている。

## 地上でよく見られる鳥

地上では、ツグミの仲間が嘴で落ち葉をかき分けて虫を探している様子がよく見られます。また、数歩歩いては止まる、という動きを繰り返すのも特徴です。シロハラとアカハラは驚いて飛び立つときに鳴くキョッキョッキョウという地鳴きがよく似ていて判別が難しいので、姿を確認しましょう。



□シロハラ【ヒタキ科】



□アカハラ【ヒタキ科】



□ツグミ【ヒタキ科】



□トラツグミ【ヒタキ科】

## 木の上でよく見られる鳥

木の上では、様々な鳥がエサを探したり、休憩したりしています。動きや、鳴き声などをたよりに探してみましょう。どんな木で何をしているかなどもよく観察してみてください。



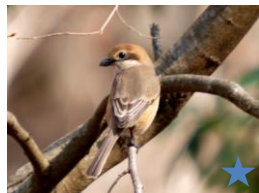
□アオゲラ【キツツキ科】

木をつついて虫などを探している。時々、空の巣箱をついて大きな音を響かせている。ピョーと大きな声で鳴く。



□イカル【アトリ科】

冬に群れで移動してくる。黄色い大きな嘴が特徴。エノキなどの実をパチパチ割らせている。ピョーと大きな声で鳴く。



□モズ【モズ科】

嘴がカギ型に鋭く曲がり、虫やトカゲなどを襲う。秋は木の上でキキキと縄張り宣言の高鳴きをする。はやにえをすることも有名。



□カケス【カラス科】

葛葉緑地ではまれだが、来るとジャージャーという特徴的な鳴き声で分かりやすい。ドングリを貯食する。

## 茂みの中や近くの地上で見つけよう

川沿いの笹藪には、警戒心の強いウグイスやアオジなどがかくれています。アオジは、移動してきたばかりの10~12月頃はすぐに藪の中にかくれてしまい、姿を見るのは難しいですが、年が明けると、あちらこちらの地上でエサをついばむ姿がよく観察できるようになります。



□アオジ

【ホオジロ科】

群れでいることが多い。チツという小さな声で鳴く。10月から4月まで観察できる。数は多い。



□ウグイス【ウグイス科】

藪にかくれて姿は観察しにくい。チャッチャツという舌打ちのような地鳴きはよく聞こえる。2月頃からさえずり始める。



□クロジ【ホオジロ科】

葛葉緑地に來る年と來ない年がある。川沿いの藪の周辺で見られる。アオジ♀とクロジ♀はよく似るが、アオジの尾羽は外側が白い。

## 外来種の鳥たち

□ガビチョウ【チメドリ科】



中国南部に分布。目のまわりの模様と、大きくて複雑なさえずりが特徴。ペット用に輸入されたが人気が出ず大量に放鳥されて以降増え続け、特定外来生物に指定されている。

□ソウシチョウ【チメドリ科】



南アジアに分布。嘴が赤く、のど元が黄色い鮮やかな鳥。葛葉緑地では冬に群れで移動してきて、笹藪などでまれに見られる。ガビチョウと同じ理由で特定外来生物に指定されている。

## 川原で見つけよう

葛葉川沿いの「野鳥の土手」では、ススキ野原がありホオジロ類が観察できます。川原では、カモ類の他、セキレイの仲間のビンズイが訪れます。キセキレイ、ジョウビタキ、モズがいたら、尾羽の動かし方に注目してみましょう。水面上をチーッと鳴きながら飛んで行くカワセミにも注意！



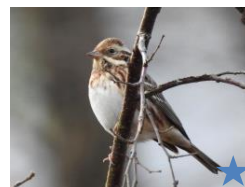
□カルガモ【カモ科】



□マガモ【カモ科】



□ホオジロ【ホオジロ科】



□カシラダカ【ホオジロ科】



□ビンズイ【セキレイ科】



□キセキレイ【セキレイ科】



□カワセミ【カワセミ科】



□アオサギ【サギ科】